

令和元年度 第1回地域創生戦略会議 概要

【地域の元気づくり】

区分	発言内容
兵庫の強みを活かした産業競争力の強化	・職の多様性には、異業種交流や企業同士がコラボレートする場が必要。
	・取組が点になっている。工業技術センターや産業活性化センターがまとめ役となって取り組めば良いものができる。
外国人が生活しやすい環境整備	・グローバル人材の確保が課題。多くの企業が集まれば人も集めやすい。
県内外からの誘客促進	・兵庫県には国宝級の施設がたくさんあることを魅力として伝えていくことが必要。
国際ツーリズムの展開	・兵庫はインバウンドが少ないが、質の高いおもてなしで、感動体験を提供できればよい。
	・個人旅行では口コミによる情報が重視されている。インバウンドの増加は新たな仕事を生み、若者定着にも繋がる。
二地域居住・都市農村交流の促進	・交流・関係人口を増やし、人口減少と行政コスト増を緩和していく必要がある。
地域再生大作戦の展開	・地域に企画力や実行力が欠けている。クリエイティブな人、あるいはそのネットワークが、地域に信頼のある個人や組織と連携して、企画力を発揮すべきだ。
観光客の受入基盤の充実	・観光といいながら、神戸のタクシーは観光への意識が低い。
全員活躍社会の構築	・人口が減少し、人手不足になる中で、7割の中小企業が働き方改革を真剣に考えていない。
	・ひきこもりの人たちを社会に出すことを考えること。
全員活躍社会の構築	・外国人、特に留学生は帰国しても関係人口となってもらうよう、彼らと信頼関係を構築する必要がある。
	・高齢化が進むと介護リスクも高まり、働き方も変わるため、企業も備える必要がある。
自然が感じられる地域づくりの推進	・田園風景を残し、サイクリングロードにするなどして発信してはどうか。
地域プロジェクト・モデル	・兵庫県の強みとして職の多様性がある。個性ある地域の自立を求めることがポイント。
	・職の多様性は選択肢の多さにつながり、若者・女性の多様なライフスタイルに対応できる。地域の職の可能性を広げる必要がある。
	・他の県庁所在地は次々と新しいプロジェクトが進んでいるが、神戸市はイメージアップができていない
	・人口の8割が集中する県南部と北部の施策は分けて書いた方がよい。
	・兵庫県だけにとどまらない、広域連携を見込んだ空間戦略を落とし込むことが大切だ。
	・各地域の中心から広がるローカル経済圏がある。暮らし、産業、観光等、様々な視点から検討すべき。

【社会増対策】

区分	発言内容
県内就業意識の高揚	・ 県内で働いていても、その会社の本社が県外の場合は、データ上、県外への就職扱いとなる。実体での把握に努めるべき。
	・ 高校生に地元企業を知ってもらうためにも、全県で産業みらい展等を実施してはどうか。
	・ 地元企業を知ってもらうためには、子どもから新卒までの世代を地域の中に巻き込み、中長期的に情報を発信する必要がある。
	・ [ハタラボ島協同組合のような取組も紹介すると、Iターン者が増える。
女性活躍の推進	・ 兵庫県は女子大や女子高が多いが、卒業生のデータベースがない。
	・ 女子学生が転出しているのは、女性の就職先が県内に少ないからではないか。
	・ 時短や職住近接などの働き方改革を進め、若者が住みやすく子育てしやすいまちづくりをするべき。

【自然増対策（子ども子育て対策）】

議題	発言内容
安心して働くことができる保育環境の充実	・ 子育て支援施策が複雑化している。誰もが安心して使える制度設計が必要。
	・ 保育所や学童保育など子どもを預けられる場所の整備を進めて欲しい。
子育て家庭を見守る地域づくり	・ 学年が上がり学童保育が無くなったとき、子どもを預けられる支援がほしい。
	・ 県内では子ども食堂やフードドライブ等を活用したコミュニティ活動が盛んだ。もっと広めてほしい。

【自然増対策（健康長寿対策）】

議題	発言内容
生活習慣の改善促進	・ 食の多様化を進めることが、田園風景を守ることにつながる。
	・ 「健康」を通じて、「兵庫にいと楽しい」というイメージを若い人へ定着させ、地域や人の結びつきやコミュニティの活性化につながる、良い循環があれば良い。
	・ 地域で子育てを支援していた人が高齢化している。地域の変容を踏まえて真剣に考えていく必要がある。